

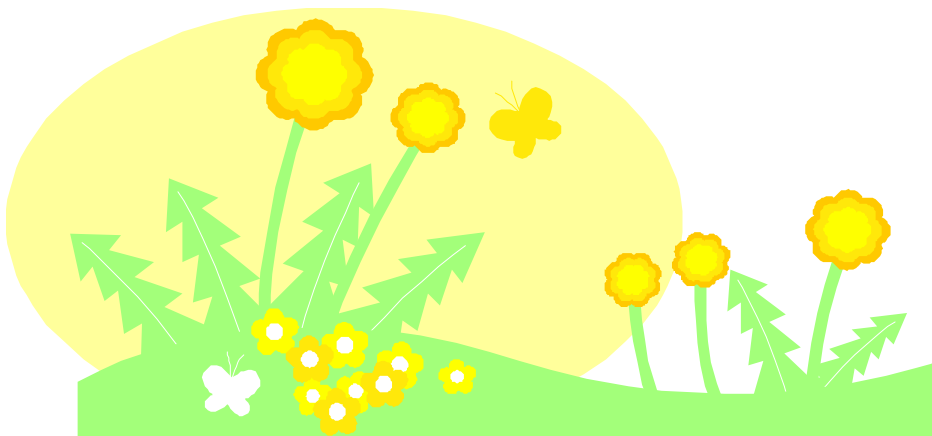
さま



私たち医療スタッフは

- I 入院や抗がん剤治療に対する不安を軽減し、最良の状態で治療が受けられるようにお手伝いいたします

- II 抗がん剤治療の副作用や苦痛を軽減し、安全に治療を続けることができるようにお手伝いいたします



ダトポタマブ・デルクステカン (ダトロウェイ) 療法

主治医／担当医

受け持ち看護師

2026年1月30日 作成

化学療法を受けられる方へ

化学療法とは「抗がん剤を使って病巣や目に見えない全身のがん細胞を攻撃しておさえる方法」です

3週間に1回のペースで点滴を行います
初回（1クール目）は入院で点滴を行い、2クール目からは外来で行う予定です
点滴の時間は、初回は約2時間15分、2回目以降は約1時間の予定です

抗がん剤の投与時期や量は、患者さんの体調や検査結果によって変更されることもあります

※治療前には血液検査や歯科受診を必ず行います

入院前の準備について

●スターターキット

外来で、スターターキットの申し込み方法を説明します
治療で注意すべき副作用症状に対する毎日のセルフケアに役立てることを目的に、無償でスターターキットを受け取ることができます

商品が届くまで1週間程度かかるため、早めに申込みをしましょう
届いたキットは、入院時にお持ちください

<キット内容>

- 口の衛生管理のためのもの
歯磨き剤、歯ブラシ、洗口液、デンタルフロス
- 不足しやすい涙液を補うためのもの
点眼薬



●その他の必要物品



- スターターキットの点眼薬は、抗がん剤投与後に開始します
キット内の点眼薬が終了した後も、点眼は続ける必要があります
近隣の薬局やドラッグストアで、防腐剤・粘稠成分を含まない
人工涙液を購入しておきましょう
(ソフトサンティア®、なみだロートファイブ® など)
- 治療期間中はコンタクトレンズの使用は控えましょう
眼鏡をお持ちの方は、入院時にお持ちください

※副作用に関する詳しい説明や対策については、入院後に歯科医師、
歯科衛生士、薬剤師、看護師が説明します

治療前の歯科受診について

- ◆治療時に起こる口のトラブルを予防し治療が円滑に進むように、
治療開始前の歯科診察を行っています
- ◆治療前の歯科受診では、以下を行います
 - レントゲン検査、歯周病検査、歯石の除去
 - 歯磨きとうがいの指導
 - 口内炎（口腔粘膜炎）の対策と指導
- ◆治療中は当院歯科の定期検診をおすすめしています



口内炎や味覚障害、歯茎の腫れや歯の痛みなどがある際は
抗がん剤の副作用の可能性があるので、歯科へお知らせください
特に、今回は口内炎が起きやすい抗がん剤です
口内炎も重症化すると食事が取れなくなることもあります
重症化の防止には歯磨きとうがい重要です

ダトロウェイ療法では高頻度で口内炎が起こります

1日3回の歯磨きと1日4回以上のうがいを行うことで口内炎を軽くすることができます

●歯磨き・うがいの習慣をつけましょう

- 定期的に歯磨き・うがいを行い、口の中を清潔に保ちましょう
義歯の場合は、専用ブラシなどを使ってお手入れしましょう
- 入院前は、スターターキットの洗口液（うがい薬）を使いましょう

●当院の歯科から処方される薬

◆うがい薬

デキサメタゾンエリキシル+生理食塩水or蒸留水

口内炎の予防効果があるとされています

1回16 ml を口に含み、「ぶくぶくうがい」を5分～10分行ってから、必ず吐き出してください

起床時と毎食後、眠前にうがいをしましょう

◆口腔粘膜炎専用薬

エピシル

口内炎の痛みがある場合に使用する薬剤です

口内炎の表面に膜を貼り、表面を保護します

膜を貼ることで痛みがなくなり、食事がしやすくなります

口内炎の痛みがある場合は、歯科にご相談ください

薬の処方と具体的な使用方法の説明は歯科で行います



入院中の生活の注意点

- ◆治療中は免疫力低下のため、感染リスクが高くなります
マスクの着用、手洗い・うがいをしましょう
入院中、手洗いの動画をテレビの無料チャンネルで視聴できます
- ◆排泄を促すために水分をしっかりととりましょう
- ◆膀胱に尿が溜まると薬が腎臓や膀胱を刺激し、炎症を起こしますので、尿意を感じたら我慢をしないでトイレに行きましょう
- ◆排尿時に痛みや残尿感がある場合には看護師にお伝えください
- ◆抗がん剤治療開始から治療後2日間ほどは、尿や便などから抗がん剤が排出されます
尿や便に触れても、健康に直接被害を及ぼすことはありませんが
できるだけ周りに広げないように以下のことに注意しましょう



- 尿がこぼれた場合は、トイレットペーパーできれいに拭き取り、
トイレに流しましょう
2度拭き取ると良いでしょう

- トイレの後、フタがある場合は、
フタをして水を2回流しましょう



- トイレのあとは石けんなどでよく手を洗いましょう
- ナプキンや尿とりパッドを使用している場合は、看護師にお知らせください
 - *使用済みのナプキンや尿とりパッドは、ナイロン袋に入れて口を結びましょう
 - *トイレからナースコールを押して、看護師に渡しましょう
- 尿や吐いてしまったもので衣類が汚れた場合は、ほかの洗濯物と分けて洗濯しましょう

ダイアリー

このパンフレットには、当院での標準的な治療や日常生活で注意していただきたいポイントなどを記載しています

また、よりよい状態で退院を迎えられるよう**患者さんご自身の目標**と**医療スタッフの目標**をあげています

入院は約9日間の予定です

治療後の回復は、個人差があり、体の状態によっては、予定どおりにすすまないこともあります。その都度対応していきますので、ご安心ください

私たち医療スタッフは、これからの入院生活を不安なく送れるように支援させていただきます





今日の目標

- ・ 治療の必要性、副作用について理解できる
- ・ 医療スタッフの説明が理解できる

<時間>

<予定>

11:00

- 入院 【入院後に以下のことを予定しています】
- ・ 看護師から病院内、病棟内、入院生活の説明（テレビの病院案内も参考にしてください）
 - ・ 検温、血圧測定、身体測定
 - ・ 連絡先、既往歴、生活習慣などの聞き取り
 - ・ 血液検査
 - ・ 歯科受診
 - ・ 医師より抗がん剤治療の説明があります
 - ・ サインをした同意書は、看護師にお渡しください

12:00

昼食、歯磨き

<お薬>

- ・ 他の病院で処方された薬は、一度お預かりします
医師に確認後、続けるか中止するかをお伝えします

<食事>

- ・ 食物アレルギーのある方は医療スタッフにお知らせください
- ・ 基礎疾患（糖尿病、高血圧等）がある方は、治療食になる場合があります
- ・ 初回治療のときは、栄養士より病院食や食事の工夫について説明があります
2回目以降、味覚障害や食欲不振等がある場合、栄養指導を希望される場合は、お知らせください

- ・看護師が口内炎・角膜障害について説明します
「セルフケアガイド 角膜炎・口内炎」冊子参照

＜必要物品の確認＞

- ・スターターキット
- ・点眼薬（市販）
- ・眼鏡（お持ちの方のみ）

点眼薬を持参されていない場合は
治療開始までに購入をお願いします
スターターキットの洗口液を使った
うがいは終了します
治療後から病院で処方されたうがい
薬を使ってのうがいを始めましょう

18:00 — 夕食、歯磨き

21:30 — 消灯

薬剤師から治療の流れや副作用の説明があります
注意点について詳しく記載された冊子をお渡しします
治療が開始したら毎日ダイアリーを記入しましょう



医療スタッフの目標

- ・安心して治療が受けられるように支援します





今日の目標

- 安全に治療を受けることができる
- 治療の副作用について理解できる

<時間>

<予定>

6:00

起床

検温、血圧測定

7:30

朝食、歯磨き

過敏症、点滴部位の痛み・血管痛、吐き気・嘔吐
便秘、下痢について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

12:00

昼食、歯磨き

- 点滴の時間は、初回は約2時間15分、2回目以降は約1時間の予定です

<午前治療の場合>

10:00 頃から点滴を始めます、点滴開始時に解熱剤を服用します
(水を準備しておいてください)

シャワー浴は、朝(9:00頃)または点滴終了後体調に合わせて
行いましょう

<午後治療の場合>

13:30 頃から点滴を始めます、点滴開始時に解熱剤を服用します
(水を準備しておいてください)

シャワー浴は、午前中に行いましょう

- 点滴中は、副作用を早期発見するために付き添ったり、頻回に訪室します
- 針の入っているところが、赤くなった、腫れた、痛いときなどはすぐに看護師へ知らせてください
- 点滴のものを防ぐために看護師が身の回りのことをお手伝いします

<時間>

<予定>

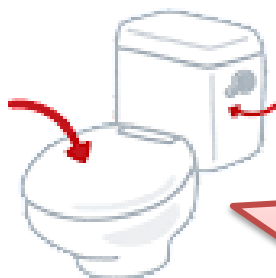
18:00

夕食、歯磨き

夕食後から、うがい、点眼をはじめましょう
実施後は、うがい・点眼実施チェック表を記入しましょう

19:00

検温、血圧測定



21:30

うがい、点眼
消灯

治療開始後は
フタをして水を
2回流しましょう

- 点滴中は、トイレなどの歩行時、転倒に注意しましょう
- 点滴台を支えにして歩くと転倒の可能性があります
支えにしないようにしましょう

吐き気の強いときは追加で薬を使う
ことができます
遠慮せず看護師にお伝えください



薬剤師がお渡ししたダイアリーに、体調の変化
や副作用症状について記入しましょう

医療スタッフの目標

- 副作用症状の早期発見に努めます
- 抗がん剤の血管外漏出予防に努めます





今日の目標

- ・ 治療の副作用について理解できる
- ・ 副作用症状のコントロールができる

<時間>

<予定>

6:00 起床
うがい、点眼
検温、血圧測定

水分をしっかりとりましょう
チェック表に沿って、
うがい・点眼をしましょう
ダイアリーを記入しましょう

7:30 朝食
歯磨き、うがい、点眼



フタをして水を
2回流しましょう

10:00 検温、血圧測定

治療2日目：脱毛について説明します
治療3日目：倦怠感について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照
「がん治療による脱毛に備えて(頭髪編)」パンフレット参照

12:00 昼食、歯磨き、うがい、点眼

吐き気の強いときは、薬を使う
ことができます
遠慮なく看護師にお伝えください



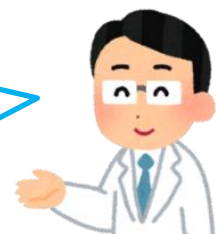
15:00 点眼

18:00 夕食、歯磨き、うがい、点眼

21:30 うがい、点眼
消灯

医療スタッフの目標

- ・ 副作用症状の早期発見に努めます





今日の目標

- ・日常生活の注意点について理解できる
- ・副作用症状のコントロールができる

<時間>

<予定>

6:00 起床
うがい、点眼

水分をしっかりと取りましょう
チェック表に沿って、
うがい・点眼をしましょう
ダイアリーを記入しましょう

7:30 朝食、
歯磨き、うがい、点眼

10:00 検温、血圧測定

治療5日目：味覚障害、食欲不振について説明します
治療6日目：息切れ・動悸について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

12:00 昼食、歯磨き、うがい、点眼

通院治療室についての説明と見学を行います
「外来で抗がん剤点滴治療を受けられる方へ」ページ参照

15:00 点眼

退院までに歯科受診があります



18:00 夕食、歯磨き、うがい、点眼

21:30 うがい、点眼
消灯

医療スタッフの目標

- ・副作用症状の早期発見に努めます





今日の目標

- ・退院後の日常生活の注意点について理解できる
- ・副作用症状のコントロールができる

<時間>

<予定>

6:00

起床
うがい、点眼

水分をしっかりと取りましょう
チェック表に沿って、
うがい・点眼をしましょう
ダイアリーを記入しましょう

7:30

朝食
歯磨き、うがい、点眼

9:30

血液検査

10:00

検温、血圧測定

血液検査の結果と骨髄毒性について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

感染予防のために手洗い・うがいは
しっかりしましょう

12:00

昼食、歯磨き、うがい、点眼

退院後の日常生活について説明をします
「退院後の日常生活について」ページ参照

15:00

点眼

18:00

夕食、歯磨き、うがい、点眼

21:30

うがい、点眼
消灯

医療スタッフの目標

- ・副作用症状の早期発見に努めます
- ・退院の準備をすすめられるように支援します



退院日 月 日



今日の目標

- ・退院後の日常生活の注意点について理解できる
- ・退院できる

<時間>

<予定>

6:00

起床
うがい、点眼
検温、血圧測定

水分をしっかりととりましょう
チェック表に沿って、
うがい・点眼をしましょう
ダイアリーを記入しましょう

7:30

朝食、歯磨き、うがい、点眼

お預かりしている薬、退院の薬がある場合は
お渡しします
次回外来予約票をお渡しします

10:00

退院
退院前に忘れ物がないようご確認ください
「入院診療費料金連絡票」を病室にお届けしますので、
2階でお支払いください

次回外来受診は

月 日 () 時の予定です

外来受診時に検査のある場合は、事前に医師から説明があります

医療スタッフの目標

- ・退院後の日常生活に不安や心配ごとがないように支援します



外来で抗がん剤点滴治療を受けられる方へ

通院治療の流れ

①受付



B受付

②採血
中央処置室



☆採血時のお願い☆
採血時に注意することは退院前に確認しておきましょう
点滴予定の腕とは反対の腕で採血しましょう



採血結果が出るまで、
約30分～1時間かかります



A受付

- 呼吸器科
- 消化器科
- 緩和ケア
- 感染症腫瘍内科
- 骨軟部腫瘍・整形外科
- 禁煙外来

B受付

- 泌尿器科
- 血液腫瘍内科
- 原発不明がん診療科

③診察受付

④診察

治療決定

C受付

- 乳腺外科
- 婦人科
- 形成外科
- 頭頸科・甲状腺腫瘍外科
- 歯科
- 病理診断科

S受付

- 消化器内科
- 糖尿病内科
- 内分泌内科
- 循環器内科
- 皮膚科
- 眼科
- 精神科
- 脳神経外科
- リンパ浮腫
- がんゲノム医療外来

S受付

⑤治療
通院治療室

看護師が点滴の針を刺し、
確認後に抗がん剤を開始します

治療終了



検査や他の診療科で診察のある方は、各受付へ

検査の説明を受ける方は、予約センターへ

予約センターは
B受付の隣です



⑥会計

処方箋もすべてファイルに入れたまま総合受付6番窓口へ提出してください。

*お薬の処方がある方へ

6番窓口で処方箋をお渡しします。4日以内にお薬をお受け取りください。

通院治療室での過ごし方

- 外来で初めて治療を受ける方は、説明と確認を行うため、少し時間がかかります。
- 入室時に、ベッドか椅子を選択できますが、混雑時にはご希望に添えないこともあります。
- テレビは無料で利用できます。ラジオや音楽プレイヤー等の持ち込みも可能です。ご利用される場合にはイヤホンをご用意ください。
- 携帯電話はマナーモードに設定し、通話をご遠慮ください。
- 通院治療室内での飲食は可能ですが、においの強いものはご遠慮ください。飲食される方は、各自でご準備ください。
- トイレは通院治療室内のトイレをご使用ください。男女兼用ですが、3か所あります。
- 付き添いは原則ご遠慮いただいております。ご家族の待機場所として「暖だん」や「図書コーナー」などがあります。
- 副作用や日常生活で困っていることや相談したいことがあれば、いつでもスタッフに声をおかけください。



退院後の日常生活について

●食事

特に制限はありません

バランスの良い食事を心がけましょう

食欲がないときは、無理をしないで食べやすいものを食べられるときにとるようにしましょう



白血球が減少している時期は、残り物、賞味期限切れのものを召し上がらないようにご注意ください

また、口内炎による口の中の痛みで食事が取りにくい場合は、当院歯科へご連絡ください

●お薬

- 医師の指示どおりに服用しましょう
- うがいや点眼は副作用症状の予防のためにも治療中は継続してください
- 点眼薬がなくなった場合は、ご自身で追加購入してください



* 37.5℃以上の発熱がある場合の対応について

- 処方されている抗生物質を服用してください
- 抗生物質は飲み始めたら、処方されている期間は飲み続けましょう
- ただし、飲み始めて「湿疹がでる」「下痢がひどい」など異常があれば内服をやめ、がん相談支援センターに相談しましょう

●活動

特に制限はありません

白血球が減少している期間は、風邪をひきやすかったり熱が出やすいため、外出時マスクを着用しましょう

外出や買い物は比較的人ごみの少ない朝の早い時間をお勧めします

●清潔

皮膚に付着している常在菌を減らすために、可能な限り毎日入浴やシャワー浴をし、体を清潔にしておきましょう

（ただし、発熱時やだるさが強い場合は控え、温かいタオルなどで体を拭くようにしましょう）

うがい・歯磨きをして口の中を清潔に保ちましょう

歯ぐきの傷つきを防止するため、歯ブラシは小さく毛の柔らかいものを使いましょう

●排泄

規則的な排便習慣を身につけるようにしましょう

便秘のときは処方便秘薬を調整して服用してください

処方されていないときは市販便秘薬を服用してもかまいません
（下痢になったら下剤は中止しましょう）

下痢のときは市販の整腸剤を服用してもかまいません

●治療ダイアリー

退院後も治療ダイアリーは、毎日記入しましょう

自宅療養中に気がかりなことがありましたら、外来受診時に治療ダイアリーをお持ちになって、主治医に相談しましょう

●その他

外来受診は、必ず受けるようにしましょう

外見の変化（脱毛、爪、皮膚のくすみなど）に関して気になることがあれば、患者・家族総合支援センター「暖だん」で情報をご用意していますので、お気軽にお立ち寄りください

お子さんがいらっしゃる 患者さんへ



「お母さん、大丈夫かな」
「お父さん、元気になるよね」

がんの治療はそれだけでも大きなストレスとなりますが、患者さんに子どもがいらっしゃる場合、その負担はより大きくなるといわれています

また、子どもにとっても親の病気は大きな出来事です
子どもは、たとえ病気のことを聞かされていなくても、
普段とは違った家族の様子に気づいているといわれます
子どものストレス反応は、年齢、性格、環境などによっては
さまざまですが、周囲のサポートを得ながら、

子どもはその困難を乗り越えて行く力を持っています



当院では、患者さんができるだけ安心して
療養生活を送ることができるように、

それぞれのご家庭の状況に応じ、お子さんも視野に入れた
ご家族全体の支援をおこなっていきます



何をするの？

大人(患者さん・ご家族)の方々へ
子どもに関する様々なご相談に
対応します
子どもへの関わり方、気になる言
動など、丁寧にお話を伺いながら、
最善の支援体制を一緒に考えます
状況によっては、教育機関や小
児医療、福祉施設との連携も視野
に入れてサポートします

何をするの？

お子さんへ
遊びや会話を通して、子ど
もの考えや感じていることを
引き出し、受け止めます
その上で、年齢に応じた病気
の説明やストレスマネジメント
などの心理教育をおこないま
す
また、院内探検などを通じ
て、病気に対する怖さを取り
除き、子どもの持つ社会的な
学習意欲を大切にします

誰に言えばいいの？

がん相談支援センター、
または、病棟スタッフに
お声かけください
子どもの心理、行動に
詳しい臨床心理士などが
対応します





- 抗生物質を飲みきっても37.5℃以上の発熱が続くとき
- 息切れが強くなったとき、咳（痰の出ない）が出てきたとき
- 吐き気、嘔吐があり、食事や水分がほとんどとれないとき
- 体を起こすことが辛いほどの強いだるさが何日も続くとき
- 口の中の痛みで普通の食事が取りにくいと感じたとき
- 眼が痛い、乾燥する、充血するなどの症状があるとき

上記のような症状がある場合やその他ご心配なことがある場合は
がん相談支援センターにご連絡ください

◆四国がんセンターの連絡先◆

【平日】 8:30~17:15

四国がんセンター がん相談支援センター
(直通番号) 089-999-1114

【平日上記時間外および土・日・祝日】

日直/夜間当直師長
(代表番号) 089-999-1111

翌日以降の外来受診日や検査予約日の変更

【平日】 13:00~17:00

四国がんセンター 予約センター
(直通番号) 089-999-1112

